

## 東に美地あり

辻 憲男（文学部教授）

「東に美地（よきくに）あり。青山四方にめぐれり」。イワレヒコはヤマトをめぐした。大阪湾に至り、河内から生駒山を越えようとして、トミビコの軍の反撃に遭った。兄が負傷した。「日の神の子だから、日に向かって戦うのは良くない」と、南の紀伊熊野を迂回した。神剣を授かり、ヤタガラスの導きによって吉野からヤマトへ入った。豪族たちを次々に従えた。ニギハヤヒの神を奉じるトミビコは、イワレヒコに「神の子である証拠を見せよ」と迫った。互いに矢と鞆（ゆき）を見せ合った。辛酉（しんゆう）の年の元日に、畝傍山（うねびやま）の橿原でヤマトの王となった。

神武伝説には謎が多いが、たしかに生駒山地は大阪側が急峻で、足元が河内湖のなごりの低湿地である。記紀に浪速、草香江、白肩津、楯津などの地名が見える。舟は今の大阪天満付近から入り、東大阪の日下・枚岡に着いた。地の利なく、しかもヤマト平原はニギハヤヒの勢力下にあった。イワレヒコはそれを知りながら苦戦し、太陽の靈威に助けられて勝利した。

河内史は文字どおり、人と川的生活史である。近世の大和川・淀川の付け替えと新田開発によって農作が広まった。水路をめぐらし、田舟で往来した。しかし寝屋川や恩智川は緩流で、大雨のたびに氾濫を繰り返した。

日本書紀は辛酉年を紀元前660年とした。21度目の辛酉の年に「天命が革<sup>あらた</sup>まる」とする、中国古代の「革命説」に基づく。古事記はこの説をとらない。



高い護岸壁のある恩智川と、生駒山。大阪府大東市御供田にて。